

AllCells 社 凍結細胞製品のお取り扱いについて

注意

- AllCells 社の細胞製品は研究用です。診断や治療目的の用途には使用できません。
- 骨髄、末梢血、臍帯血に関しては、HIV、B型肝炎、C型肝炎について陰性であることを確認しています。しかし、バイオハザードの可能性の高いものとして取り扱ってください。感染性病原体の混入に関しては AllCells 社及びベリタス社で責任を負うところではない事をご承知ください。
- 細胞の品質保証期間は、AllCells 社からの出荷から1年以内(液体窒素タンクの気相状態保存下)です。お早めにご使用ください。

凍結細胞の解凍方法

1. 10% FBS を含有する培地（例えば IMDM, MEM, RPMI-1640）を温めておく。
2. 解凍前にバイアルを 70%エタノールで拭く。クリーンベンチでバイアル内の圧を解放する為にキャップの蓋を緩め、再度締める。
3. 細胞を RNA や cDNA の精製に使用する場合：
このステップは不要です。
CD34+細胞のように精製された製品を培養に用いる場合：
50 mL コニカルチューブ（以下チューブ）に 100 ug の DNase I を入れる
MNC のように精製されていない製品を培養に用いる場合：
チューブに 300 ug の DNase I を入れる
4. 凍結細胞が入ったバイアルを 37°C のウォーターバスにつけ、最後のひとかけらが僅かに残るくらいまですばやく解凍する。バイアルの外側を 70%エタノールで拭く。
5. バイアルから 10 uL とって血球計算盤にのせ、細胞をカウントし、トリパンブルーで Viability をもとめる。
6. 細胞懸濁液を、Step 3 で DNase I を入れたチューブに無菌的に移す。
7. 培地 1 mL でバイアルをすすぎ、この液をゆっくりと 5 秒に 1 滴ほどのスピードで、チューブを回旋させながら移す。
8. さらにチューブのトータルボリュームが 15-20 mL になるまで、同様の方法でゆっくり培地を加える。
9. 200×g、室温で 15 分間遠心する。
10. 細胞ペレットを崩さないようピペットで上清を数 mL 残して別のチューブに移し、とっておく。残した上清で細胞をやさしく再懸濁する。
11. Step.8 と同様に、チューブのトータルボリュームが 15-20 mL になるまで培地を加える。
12. 200×g、室温で 15 分間遠心する。
13. ピペットで 2 mL 残して上清を除く。残した 2 mL で細胞を懸濁し、カウントする。細胞が予想より少なかった場合は、Step10 で別のチューブにとっておいた上清をよりハイスピードで遠心してカウントし、必要に応じて最初のチューブに加える。

株式会社ベリタス 〒105-0013 東京都港区浜松町1丁目10-14 住友東新橋ビル3号館5階

TEL 03-5776-0078 FAX 03-5776-0076

技術的なお問い合わせは：TEL 03-5776-0040 E-mail techservice@veritastk.co.jp